

1 コミュニケーション志向の英語教育の流れ

1974年 平泉渉（参議院議員）「外国語教育の現状と改革の方向—一つの試案—」
→渡部昇一（上智大学教授）との英語教育大論争

1986年 臨時教育審議会第二次答申 1987年最終答申「英語教育の見直し」
文法・読解中心からコミュニケーション重視への転換

大学入試において TOEFL などの第三者機関による検定試験の利用

1989年 学習指導要領改訂告示（1993年施行）

「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」を明記

2002年文科省「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」

2003年文科省「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」（2003～07年度）

2 新学習指導要領における英語の授業

2008年3月 小・中学校学習指導要領告示（小学校 2011年、中学校 2012年施行）

小学校外国語活動必修化（5・6年生）、中学校外国語の週4時間化、

4技能による総合的コミュニケーション能力の育成、語彙の3割増。

2009年3月 高校学習指導要領告示（2013年施行）

4技能の統合的指導、「授業は英語で行うことを基本とする」と規定。

3 「グローバル人材育成」へ

1) グローバル人材育成推進会議(2011中間まとめ、2012「グローバル人材育成戦略」

- ①外部検定試験を活用した英語・コミュニケーション能力（理解力・表現力等）の到達度の把握・検証。②高校生の TOEFL の成績や英検の実績等の公表を促進。③英語教員の採用段階で TOEFL・TOEIC の成績等を考慮し、外国人教員の採用促進。

グローバル人材とは

1) 語学力・コミュニケーション能力

2) 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

3) 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

英語力の目安

①海外旅行会話レベル ②日常生活会話レベル ③業務上の文書・会話レベル

④二者間折衝・交渉レベル ⑤多数者間折衝・交渉レベル

2) 「国際共通語としての英語」のための5つの提言（2011年6月文科省「外国語能力の向上に関する検討会」）

- ①生徒の英語力の達成状況を把握・検討、②生徒にグローバル社会における英語の必要性について理解を促し、英語学習のモチベーション向上を図る。③ALT や ICT 等の効果的な活用を通じて生徒が英語を使う機会を増やす。④英語教員の英語力・指導力の強化や学校・地域における戦略的な英語教育改善を図る。⑤グローバル社会に対応した大学入試となるよう改善を図る。そのための具体的施策は、(1)学習指導要領に準拠して4技能を総合的に問うタイプの入試問題の開発・実施を促す。(2) A0 入試・一般入試等における TOEFL、TOEIC 等の外部検定試験の活用を促す。

3) 自民党教育再生実行本部「成長戦略に資するグローバル人材育成部会提言」

(2013年4月8日)

大学入試に TOEFL 等を導入する「英語教育の抜本的改革」
世界レベルのトップ30大学の卒業要件 TOEFL iBT 90点
高等学校段階で TOEFL iBT 45点以上を全員が達成
英語教師 TOEFL iBT 80点(英検準1級)程度以上を採用条件
国家公務員の採用試験で TOEFL 等の一定以上の成績を受験資格とする

4) 経済同友会「実用的な英語力を問う大学入試の実現を：初等・中等教育の英語教育改革との接続と国際標準化」発表(2013年4月22日)

5) 政府教育再生実行会議(第3次提言)

日本人留学生を12万人に倍増、外国人留学生を30万人に増やす
大学入試や卒業認定に TOEFL 等の外部検定試験の活用
小学校の英語学習の抜本的拡充(実施学年の早期化、指導時間増、教科化、専任教員配置等)
中学校における英語による英語授業の実施

4 外部試験とは何か

1) 「目標基準準拠テスト」(criterion-referenced test: CRT)

個々の受験者が目標に対して達成した学習量を測定するもの。学習状況を把握するために行う「診断テスト」(diagnostic test)、授業終了後に行う「達成度(到達度)判定テスト」(achievement test)があり、テスト内容と学習した内容が関連している。

2) 「集団基準準拠テスト」(norm-referenced test: NRT)

受験者の能力を集団の中の他の受験者と総体的数値を使って比較をすることが目的。各校が実践してきた教育内容とは無関係に作成され、大規模で一律に実施される。TOEFL/TOEICなどの「熟達度判定テスト」(proficiency test)が代表的。テスト内容と、受験者が受けてきた教育とは直接的な関係がない。

3) 各種の外部試験

TOEFL=Test of English as a Foreign Language (インターネット形式の iBT)

TOEIC=Test of English for International Communication

GTEC=Global Test of English for Communication

IELTS=International English Language Testing System

TEAP=Test of English for Academic Purposes

5 コミュニケーション能力 (Canale and Swain, 1980)

- ① 文法能力(文法、語彙、音声を含む言語知識)
- ② 談話能力(結束性と一貫性をもって書く話す力)
- ③ 社会言語的能力(話し方の規則に従った適切な使用)
- ④ 方略的能力(コミュニケーションを成立させる力)

「コミュニケーションは、関係構築であり相互行為」
=「導管モデル」ではなく、「相互行為モデル」としての理解

6 「グローバル人材」に求められる異文化コミュニケーション力

1) 「グローバル人材」とは？

国家に尽くす人材？ グローバル市場で勝つための人材？

グローバルな共同体に尽くす人材？

2) 異文化コミュニケーション力とは？

文化的他者との相互行為

「異質な文化と人に対して開かれた心」「異なる世界観を尊重する寛容性」

「相手に配慮しつつ、自らの考えを論理的に主張し、折り合うことのできる
コミュニケーション能力」

[参考]

「グローバル化した社会のコミュニケーションにおいては、インターネット、Eメールなど情報通信技術の発展やフェイスブックなどソーシャルネットワークの世界的拡大も相俟って、書記言語が音声言語と並んで、重要な役割を果たしている。それゆえ音声言語の運用能力の訓練と並んで、リテラシーの学習を重視すること。また、話し言葉であれ論文やビジネス文書などの書き言葉であれ、英語的な論理構成を学ぶことは、グローバル・コミュニケーションにおいては必須である。」

(日本学術会議 2012年12月)

参考文献

Byram, M. (Ed.).(2003). *Intercultural competence*. Strasbourg: Council of Europe.

Canale, M. & Swain, M. (1980). Theoretical bases of communicative approaches to second language teaching and testing. *Applied linguistics*. 1(1):1-47.

Canale, M. (1983). From communicative competence to communicative language pedagogy. In J.C. Richards & R. Schmidt (Eds.). *Language and communication*. London: Longman.

Council of Europe.(2002). *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge University Press.

平泉渉+渡部昇一 (1995)『英語教育大論争』文春文庫

日本学術会議 (2012) .『大学教育の分野別保証のための教育課程編成上の参照基準 言語・文学分野』(大学教育の分野別質保証推進委員会、言語・文学分野の参照基準検討分科会)

小国綾子 (2013)「特集ワイド:『グローバル人材=英語力』なのか 『押しの強い人』は誤解」 養成コスト削減が企業の本音」毎日新聞夕刊6月19日

大津由紀雄、江利川春雄、齊藤兆史、鳥飼玖美子 (2013)『英語教育 迫り来る破綻』ひつじ書房

大野博人 (2013)「グローバル人材ってだれ？」朝日新聞朝刊6月16日

鳥飼玖美子 (2011)『国際共通語としての英語』講談社現代新書

鳥飼玖美子 (2013)「グローバリゼーションの中の英語教育」、広田照幸、吉田文他(編)『シリーズ大学 第1巻 グローバリゼーション、社会変動と大学』(139-166頁)岩波書店

鳥飼玖美子 (2013)『戦後史の中の英語と私』みすず書房

鳥飼玖美子 (2013)「成果上がらぬ英語教育 検証なき改革 悪化招く」北海道新聞朝刊6月21日